

CAVOKV 航海日誌 2014年 #1

5月1日(木) Kemer ~ 5月16日(金) Marmaris

松崎義邦氏メール 5月20日

Subject: CAVOK5 航海日誌 1

皆様に

早いものでオランダを出港してから今年で5年目のヨーロッパクルーズが5月1日よりスタートしました。

今年はヨット部 OG,OB の上田夫妻、斉藤夫妻がスタートから一緒に賑やかな航海になりました。今年の前半の行程はケメルからトルグトレイスまでの往復になりますが、地中海に面したトルコは海辺の宝庫を訪ねる航海になります。この辺りは紀元前3000年頃からリキア、カリア文明が栄えたところです。その後ローマ、ベネチア、セルジュクトルコ時代と歴史が続き、遺跡があちこち点在しています。

リキア、カリア地方の海岸線は至る所に泊地に適した入り江があります。又要所所には設備の整ったマリーナがあり、遺跡に囲まれた静かな泊地での錨泊が出来、レストラン棧橋に舫ってのシーフード料理を楽しめ、そして透明度の高い綺麗な海での海水浴、どれをとっても素晴らしい所です。

未だ季節は毎日快晴の地中海気候でなく、時折雨も降ったりしましたが、タイミングをみながら順調な航海のスタートを切ることが出来ました。

ケメルを出港してから、錨泊して自然を楽しんだり、マリーナに碇泊して観光したり、レストラン棧橋に着け美味しい料理を食べたりしながら10か所程寄港して、ここマルマリスに到着しました。マルマリスはヨーロッパの大バカンス基地になっています。設備の整った600~800隻係留できる大きなマリーナが二つもあります。

トルコ料理も我々の口に合いレストランでの食事也大いに楽しんでいます。

途中艇の不具合も発生しましたが、トルコ人のメカニックは几帳面での確に修理してくれ直ぐ直り助かりました。

これからも綺麗な海を楽しみたいと思っています。今年も天候に注意しながら安全を第一に考えて航海したいと思っていますのでよろしく応援の程お願いいたします。

マルマリスにて

松崎義邦

写真の添付

1. ケメルの海水浴場(4月)
2. トルコの友人ファミリーとピクニッククルーズ
3. カレキョイのレストラン棧橋の CAVOK5
4. 上田夫妻、斉藤夫妻との艇内での食事
5. エキンチックの棧橋
6. マルマリスの港

航海日誌

2014年5月1日(木) Kemer ~ Cinevis (15NM) 曇り時々晴れ 風 南 2~10ノット

今年の航海の初日だ。前々日に斎藤夫妻(52年卒)前日に上田夫妻(45年卒)が CAVOKV に来艇して、賑やかな航海が始まった。

3週間前から私はケメルに来て、今年の出港準備をしていた。

例年のエンジン点検、船底塗料そして今年にはビミニ(コックピットの日よけ、雨避け)ギャングウェイ(乗り降り用の梯子)を新調した。

約3週間はあっという間に過ぎた。その間昨年ここで知り合ったトルコ人のブラントさんにお世話になり彼の家に泊めてもらったり、お昼は毎日彼のお姉さんの作ってくれる料理をご馳走になった。

彼には上田さん、斎藤さんを空港まで迎えに行ってもらったり色々とお世話になった。

午前中に最後の準備が終了した。

ブラントさんが見送りに来てくれ、マリーナのスタッフの手伝いを受けて13時に舳いを解き出港する。

マリーナの出口にあるガスステーションで軽油を満タンにする。軽油は1Lあたり日本円で換算すると200円ぐらいでトルコはガソリンが高い。

快晴の天気の中、機走でここから15NM南のチネビス湾に向かう。生憎と弱い向かい風だったがお昼を食べるときはエンジンを切って微風の中セーリングをしながらお昼にスペイン風オムレツをビールで頂く。

16時過ぎにチネビス湾に入る。ここは昨年2回錨泊しているので3回目になる。既に3艇のガレット船がアンカーリングしていた。アンカーを打った後ラバーボートを降ろして海岸に行く。

生憎と雲が出てきて半袖では涼しいので皆さん上着を着る。海水温度を測ると20度だ。20度の温度は日に照らされた体を冷やすには良い温度だが曇り空の中では泳ぎたい温度ではない。皆さんは泳ぐのは止めたが、私はアンカーの効きを調べる事もあって泳いで調べに行く。残念ながら日陰になり暗くアンカーの効きはチェック出来なかったが気持ち良い海水浴であった。

皆さんはコックピットでジントニックを飲んでいたので暖かいシャワーを浴びた後参加する。久しぶりの



夕暮れ一杯は良いものだ。夕食はトルコ料理のキョフテを赤ワインで、そして昨日市場で仕入れた新鮮な野菜のサラダを頂く。錨泊での食事は特別美味しかった。

上田さん、斉藤さんとも長旅にも拘わらずとても元気だったが9時過ぎに皆さんお休みになる。

5月2日(金)Cinevis~Finike(28NM)曇り時々晴れ 風 南2~18ノット

チネビス湾では静かな夜を過ごした。両サイド高い崖に囲まれた入り江で朝食をキツネうどんで頂く。まだまだ朝晩は寒さがあり温かい朝食が美味しかった。

09:50にアンカーを揚げて18NM先のフェニケに向けて舳を解く。穏やかな海面を機走で走る。12時過ぎにお昼を秋刀魚のかば焼き丼を頂く。

お昼ご飯を食べたあたりから南の風が吹き出してきてセーリングを始める。段々風が強くなってきたのでメインとジブをリーフする。その後風が20ノットを近くなり3ポイント迄リーフしてオーバーヒールにならないよう帆走する。クローズドリーチングの帆走で艇速は7ノット以上をキープする。未だ雲の多い天気です太陽が雲に隠れると寒さを感じる。

フェニケのマリーナに16:20に入港する。ここはラバーポートで舳を取に来てくれる。横風が強いとき槍着けでスターンから着ける時は大変助かる。

フェニケはトルコで展開しているセツール・マリーナチェーンの一つで施設が整っている。皆さんにトルコ風呂を経験してもらいに行くが女性は入れず男3人で入る。地元のトルコ風呂で地元の人と一緒に現地の生活を垣間見る。

お風呂から帰りに、イタリア人から声を掛けられ、日本人かと聞かれてそうだとするとフェニケのマリーナに日本艇が入っていると教えてもらう。艇名はFOXGLOBEとの事、日本で会ったことのある知り合いの浅沼さんの艇だ。

早速彼を訪ねにポンツーン(桟橋)に探しに行き彼の艇を見つける。久しぶりの再会で話が弾む。夕食をCAVOKVに誘って一緒にする。今晚のメニューは、野菜サラダ、ポテトのガーリックソテー、ラムチョップと赤ワインで頂くがケメル肉屋で購入した生ラムはフレッシュでとても美味しかった。

浅沼さんは現在67歳だが45歳の時にニュージーランドで今の船を買って日本までシングルハンドで運んできた。そして60歳の定年を迎えて太平洋をカナダ迄渡り、その後パナマ運河を抜けて大西洋を渡ってここフェニケに昨年10月に着いたそうだ。

彼の冒険話を聞きながら夕食を楽しんだ。

5月3日(土)Cinevis~Kalekoy(16NM)快晴 東1~15ノット

朝コックピットでお粥の朝食を塩昆布とツナの佃煮で頂いて、Foxglobeの浅沼さんの見送りを受けて09:10に舳を解く。16NM先のケコヴァ湾にあるカレコイを目指す。朝方は弱い風で暫く機走するが予報通り追っ手になる東の風が吹き出しジェネカーを揚げる。徐々に風も強くなり15ノットの風で8ノットの速度で快調に走る。

今航海初めての快晴の日になる。コックピットではカンツオーネの曲を流してビールで喉を潤す。

ケコヴァロード(海峡)に入ると波も静かな両サイドの景色を眺めながら快適にセーリングする。2度目のカレコイであるが昨年係留したレストランでなく魚スープが美味しいと聞いた2軒隣のHasan's Roma



レストラン桟橋に係留する。3 つ程桟橋があるが 3 つとも呼び込みをしていた。

舫った後、早速要塞の下の村の可愛らしい桟橋レストランで冷えたビールを飲む。

お昼を斎藤夫人の玄米ぶっかけ蕎麦を美味しく頂く。食後村の直ぐ裏にある紀元前 4 世紀リキヤ時代からオスマントルコまで続いた要塞に登る。

上からのケコヴァの景色は海と入り江が綺麗に映りとても美しい光景だ。要塞に登る途中にはリキヤ時代の石棺

が点在してあり歴史の変遷を感じさせる。

艇に戻ってから海が綺麗なので上田新次郎さん、斉藤雅子さん、私と泳ぐ。水温は 20 度だったが寒さを感じず気持ち良い。上がったのちシャワーを浴びてからの一杯が美味しい。

夕食は桟橋レストランで 3kg あるシーブリーム(鯛に似た魚)のブンヤベースとポテトフライ、ズッキーニボール、サラダを白ワインとロゼで頂く。トルコのポテトは美味しい、そしてブンヤベースのスープは前回ここに来たときドイツ人に勧められたものだったが、大変美味しく大好評であった。但し魚は高くシーブリームだけで 310トルコリラ(約 1 万 5 千円)したがその価値はあった。

夜はこの桟橋に係留して休む。

5 月 4 日(日)Kalekoy 曇り

今日から明日にかけて気圧の谷が通過するため天候が悪くなるのでここカレキョウイで連泊することにする。昨日のブンヤベースが余って持ち帰ったのでそれを朝食食べるがスープが魚の臭さもなく美味しい。

観光をすることにしてレストランの主人に頼んで観光案内を手配してもらおう。この周辺はリキヤ文明が栄えたところでケコヴァロード(ケコヴァ海峡)には沈下した遺跡がある。

ボートで先ず海底遺跡を案内してもらい、そのままユチャウズ(Ucagiz)の港に着けてもらい、マイクロバスでミュラ(Myra)遺跡に行く。この辺り一帯はリキヤ人(紀元4000年位から定住してこの辺り一帯に都市国家をつくる)が住んでいてリキヤ地方と呼ばれている。リキヤ人の岩壁墓が幾つも造られていた。ギリシャ劇場も保存の良い状態であった。

その後聖ニコラウス聖堂に行く。聖ニコラオスは4世紀の大司教で海運の守護神、又サンタクロースのモデルとして知られている。安全航海を祈願する。

戻ってからユチャウズの港でカラマリ、エビそれとポテトをビールでお昼代わりに食べる。食料の買い出しをしてからレストランのボートに迎えに来てもらい艇に戻る。

艇では各自思い思いに休むが夕方になるにつれて風が強くなり雨も降ってきて艇は揺れるが、18時頃には風も雨も治まりコックピットでハッピーアワーが始まる。

夕食は桟橋レストランでメゼ(前菜)にナスのキャセロール、豆料理、サラダ、ズッキーニボールを取り、メインにキョフテ、鶏肉のグリルをロゼワインで食べる。トルコ料理を連日食べているが日本の味付けと

似て飽きない。

昨日は魚料理で6人で630トルコリラ(約3万円)を払ったが今日は魚を食べなかったので160トルコリラ(約8000円)であった。魚はこちらでは高い。

静かになった海の上で安らかに眠りにつく。

5月5日(月) Kalekoy ~ Kas (21NM) 曇り、雨

昨夜から低気圧の通過で雲と時折の雨と風の天気だった。午後からは回復する予定だったので昼過ぎに出ることにして、ゆっくりコーヒーとヨーグルト、パンの簡単な朝食を頂く。

9時過ぎに空が明るくなったので出港することにして 09:30 にレストランの夫婦に舫いを解いてもらう。

暫く静かなケコヴァ・ロードを機走するが30分ほどして行く先の方に雷が光る。雨も降りだしたので引き返すことにして 10:30 に出港したレストランに引き返す。予定通りお昼過ぎに出港すべきであった。

レストランで雨宿りをしながらお昼を食べる。ここのレストランは我々の頼む物は総て美味しく再度、フライドカラマリ、ズッキーニボール、サラダ、ラタトゥユとフライドポテトを飽きずに頼む。皆さん大満足であった。

食休みをした後西の空も明るくなったので 13:35 再出港する。風が北に廻り 15 ノット前後の中斜め後ろに風を受けて7ノットの速度で快走する。約1時間程度の北風だったが風が前に廻りセーリングを諦め機走に変える。

カシュ(Kas)に近づくにつれて島と岩礁が点在するようになり気を付けながらカシュの入り江に入る。VHF でマリナーを呼ぶと優しい女性の声でウエルカム カシュ・マリナーと返答してくれる。

ラバーボートでスタッフが来てくれポンツーンに 17:00 舫う。私は艇に残りメインファウラーの巻取りが悪かったので治す。昨年チャシュメのマリナーでお会いしたトルコ人が流暢な日本語で会いに来てくれた。彼にはカシュに艇を置いてあり、昨年ここカシュのマリナーを薦めてもらった。

夕食は鶏鍋でこちらの鶏は日本でいう地鶏の様で味が濃く、野菜と共に大変美味しい、上田さんが持ってきてくれた純米吟醸で頂く。昨夜と変わった雲のない空で三日月が出ていた。

明日は 42NM 先の錨泊地に行くが予報が向かい風なので朝7時に早めの出港予定にして眠りにつく。

5月6日(火) Kas ~ Gemiler (42NM) 快晴 西 10~12 ノット

西風の向かい風が昼から強くなるので、6時起床で早く出発することにする。マリナーのスタッフVHFで呼び出し7時に舫いを解き出港する。暫くは無風の中機走する。予報通り吹き出して西風は向かい風でセールを張ることなく6時間程機走する。最後のレグ10NM位でコースも北西に変わったのでセーリングを楽しむことが出来た。途中白い砂浜が続くオリュデウス海岸の沖を通過する。この辺りに来るとヨットも多くなり10艇以上のヨットとすれ違う。

ゲミレル島の錨泊地に来るとレストランのラバーボートが飛んできてアンカーの手伝いをしてくれる。但しタダでなくレストランへのお呼びだ。我々は静かな泊地での夕食を楽しみかったので出前にサラダ、カラマリフライ、ポテトフライを頼む。

アンカーリングした後、島に上陸してビザンチン時代の教会に登る。ここは日本の大学が発掘協力を

したところだ。島の上からの眺望は前回も来たが素晴らしい光景だ。ガレット船で観光客が沢山見学に来ていた。

汗かいた体を全員泳いで冷やす。海の透明度は高くそれに伴う海の色が綺麗だ。岸边には当時の遺跡が続いている。泳いだ後の夕暮れのジントニックの一杯が気持ち良い。

頼んでおいたカラマリ、サラダ、ポテトが届き夕食はこれを前菜として、ロゼを頂く。メインは色々煮込んだカレーで美味しかった。静かなアンカーレッジで夕餉を楽しんだ。

5月7日(水) Gemiler ~ Fethiye (16NM) 快晴 西 1~10 ノット

朝8時にモーターボートで頼んでおいたパンを届けに来る。昨日の出前の料理が130トルコリラ(6500円)、そして今日のパンは25トルコリラと出前が高すぎるが観光地の料金と云うことで諦める。

静かな泊地での、朝のコーヒーは美味しい。岩に舫っているロープをラバーボートで外しに行き、アンカーを10:20に揚げて静かな海面の海峡を抜けて沖に向かう。

今日は16NMの近い距離なので風は弱いがセーリングを楽しむことにする。今回初めてヨットに乗った上田さんのご主人もセーリングの快適さ楽しんだようだ。湾の奥にあるECE Marinaに15:00に舫う。ここもラバーボートで舫いを取に来てくれる。

お昼を洋上で食べる予定であったがガスが無くなり食べれなく、早速ガスボンベを買いに行き遅い昼食を食べる。斎藤さんが持ってきた宮川のウナギのかば焼きを頂くが地中海でのかば焼きはなかなかの味で乙なものだった。

入港の時バウスラスターが動かなかったので調べるがバウスラスター用のバッテリーが弱くなっていた。早速マリーナに修理を頼んだら直ぐメカニックが来てくれバッテリーが寿命と云うことで交換した。

山に湧きたっていた積乱雲が被ってきて雨を降らす。暫くの雨だったが雨上りの後が気持ち良い。夕食はお昼が遅かったのと、かば焼き丼でご飯を十分食べたので、軽くすることにして肉じゃが、野菜、最後に味噌汁とお茶漬けを頂く。

5月8日(木) Fethiye 晴れ後曇り 時々雨

今日は29日から一緒だった斎藤夫妻がダルマン空港からイスタンブール経由で帰国する日だ。簡単な朝食をコックピットで済ませて斎藤さんは荷づくりをする。

お二人は出発の準備をしてからフェトヒエの町に買い物に出かける。我々は洗濯物が溜まったのでマリーナのコインランドリーで洗濯したりしながらのんびり過ごす。

お昼はラムの腿のオープン焼きとガーリックポテト、サラダそしてシャンパンで斎藤さんのお別れ会をする。



奥さんの雅子さんとは初対面での一緒の航海であったが明るくて前向き、チャタリングで楽しく、とても素敵な方だった。

斎藤さんは日本ヨット協会の仕事、オリンピック強化委員と忙しい中良く来てくれた。

当初の計画では手前のカシユ(Kas)で下船して帰国予定であったが航海が順調に進んでフェティエまで足を延ばせた。

お昼はお別れ会にピッタリの美味しいラム料理だった。

15:40 にマリーナからタクシーで 25km 先のダルマン空港に向けて出発する斎藤夫妻を見送る。見送った後暫く艇で午睡する。コックピットでのうたた寝は気持ち良い。

夕方町を見学してからフィッシュマーケットに行く。魚が豊富にありこんなに沢山の種類の魚が地中海に居るかと思うぐらいだった。

夕食はフィッシュマーケットに隣接したレストランで鯛、スズキのグリル、カジキマグロのシシをチャンカヤの白ワインで食べる。流石マーケットの横のレストランだけあって新鮮で美味しかった。

このレストランはマーケットで買った魚を 6トルコリラで調理もしてくれる。又来たいところだ。

ちょっと町の観光をして帰ってきたら 22 時になっていた。シャワーして休む。

5月9日(金) Fethiye 曇り時々雨

気圧の谷の通過でどんよりした天気だ。今日の出港は諦めてゆっくり起きて、スペイン風オムレツを朝食で頂く。お昼前に金曜バザールがあるということなので町に出る。

小さなバザールで見る物はさほどなかったが奥さん方はお土産に刺繍の入ったきれいなタオルを購入する。バザールには出店が出ていてケバブとキョフテ、豆のスープを買って食べる。ケバブには鶏肉、オニオン、トマトが入っていて美味しい。デザートにドンドルマを食べる。すっかりトルコ人になったようだ。

帰りに海辺のレストランでチャイを飲んでから奥さん方はショッピングを楽しんで帰る。マリーナの前でデリバリー・フリーの食品店でワイン、ビール、水等重たいものを購入して届けてもらう。

ここ ECE Marina は良いマリーナだが一日 83€と高いので隣の Yacht Classic Marina に移ろうと思って聞きに行ったが生憎満杯で移れなかった。因みにここは 1泊 69€食事すると 1泊 40トルコリラ(15€)であった。ホテルのある小さなマリーナで素敵な雰囲気があったので残念だった。

夕食は艇内でナスのひき肉料理とサラダを赤ワインで頂く。

5月10日(土) Fathiye ~ Twenty Two Fathom Cove(13NM) 曇り晴れ 南 10~25ノ

ット

天気予報では午前中時折雨の予報が出ていたが起きると晴れ間が見えていた。

朝食をゆっくり食べた後、隣にある Yacht Classic Marina に見学兼ねてお茶を飲みに行く。ここはホテルもあり、又ヨットチャーター会社の基地でもあり 20 艇程止められるポンツーンは殆どムアリング社のチャーターヨットであった。

艇でキツネうどんとオムレツを頂いてから、出港することにする。予定では 13NM 先の Wall Bay を予定していたが、近くの艇の方が Wall Bay の隣の Twenty two Fathom Bay の方が良いと教えてくれたので目的地を変更する。

湾を横断する形で入組んだ入り江のさらに奥にある Twenty two に行くが湾横断中は 20 ノットを越える風の中リーフしても 8 ノット以上キープしながら横断する。

入り江に入るとぴったり風も波も治まり静かな海面になる。ここも家族営業の小さなアミーゴと云う名のレストランがありその棧橋にスターンづけする。全部で 4 艇の係留になったがそれでほぼ一杯になった。

海水が綺麗で早速泳ぐ。ここのオーナーがチャイをご馳走してくれ他艇の人たちと頂く。隣の艇の人は英国人だったが息子が東京で働いているとのことだった。

夕食は棧橋横の磯で簡易テーブルを出して焚火をしての食事になる。4 艇全員で 10 名だけでワインを持ち込んでラムそしてチキンのキャサロールそして新鮮なサラダ、キョフテを食べるがすべてが非常に良い味で美味しかった。トルコ料理は外食が続いても美味しく食べられる。

食事の後英国人、オランダ人、ドイツ人のカップルと一緒に焚火をあたりながらチャイを飲む。焚火と海とヨットと素敵な光景を見ながら夜を過ごす。

一組のカップルはもう 10 日もここに係留しているそうだ。我々もゆっくりしたいところだが後ろ髪をひかれるように明朝出港することにして眠いにつく。

5月11日(日) Twenty two fathom cove ~ Ekincik (31NM) 晴れ 微風 東~南

午後になると南西風が強くなるので 6 時に起きて 06:30 に名残惜しいが舳いを解く。



無風の静かな湖の様な海面を機走する。湾を出てから微風だが追い風の東が吹き出したのでセールを揚げて機帆走する。朝食を一昨日フェティエのスーパーマーケットのカルフルで仕入れた生ハムのサンドイッチを走りながら頂く。

11:15 にエキンチックの棧橋にスターン着けする。到着をビールで乾杯した後、少し棧橋の上にあるマイレストランに行ってみる。前回も訊ねたところだがきれいな山小屋風のレストランで見晴らしが良い。

19時に食事の予約と明日リキヤ文明の遺跡のある Caunos と泥温泉のある Dalyan に行くボートを予約する。

お昼に稲庭うどんの付け麺を頂く。食後コックピットで昼寝をしていると雷鳴が聞こえてきて雷雨になる。キャビンでの昼寝になった。一眠りの後海に飛び込みシャワーを浴びるがひと泳ぎしてからのシャワーは気持ち良い。

コックピットで夕暮れをロゼで楽しむ。最初2艇だったのが次々入ってきて10艇以上になっていた。

19時過ぎにマリーナを見渡せるレストランに行く。

ここはメニューが無く、魚をカートに入れてきて見せる。選んだ魚と調理方法を決めて料理する。我々は2.3kgのグルパー(クエに似た魚)を選んで半身をグリル、残り半身をスープ風に注文する。

メゼ(トルコ風前菜)にはイカ、タコのマリネ、3種盛りの浸け野菜そしてサラダを頼み白ワインで食べる。グルパーは程よい脂がありグリルもスープ仕立てで食べても3星レスロランとも勝負できる味であった。

お値段はグルパーが310TL(約15000円)その他メゼ、ワイン、チップ入れて4人で550TL(27500円)ローカルにしては高いがこの価値は十二分にあった。

夜艇に戻るとネズミが侵入しているのを発見、慌てて追い出す。やはり出かけるときは梯子を揚げておくべきだった。又外部電源が取れなくなってしまった。コネクターを調べたが原因分からず次の寄港地マリマリスで修理することにする。

5月12日(月) Ekincik 快晴

今日は Caunos, Dalyan にチャーターボートで観光する日だ。

昼前にチャターした観光船が棧橋に予約した11:30に到着する。静かな海面を行きながら洞窟を見ながらダルヤン河口に向かう。晴天で気持ちの良い海だ。最初の河口がブルークラブの産地でこれの茹でたのをボートで売っている。買って食べながらダルヤン川を遡上する。ツバメが飛び交う牧歌的な風景の中、長閑な焼玉エンジンの音を楽しみながら遡上する。

途中 Caunos の遺跡のあるところで降りて観光する。紀元前6世紀から東ローマ帝国までの歴史ある遺産だった。その後リキヤ時代の岩壁墓石を河から見て河岸の立ち並ぶレストランに立ち寄り昼食を食べる。ダルヤン川を更に遡上して泥温泉の船着き場に着き泥温泉を楽しむ。

先ず泥温泉で泥を体に塗り、暫く体を日干しにする。泥が乾いたらシャワーを浴びて硫黄の匂いのする温泉に浸かる。温泉の温度が心地よく結構長い間浸かる。

さっぱりした後エキンチェックに戻る。着いたのは16時過ぎで約5時間のボート旅行を楽しんだ。着いてから上田新次郎さんは海水浴を楽しむ。今日は昨日より多く17艇が係留していた。係留している皆さんは夕暮れ時に泳いでいた。

毎日の外食は疲れるので、夕食は鶏入りのポトフをコックピットで頂く。薄味で連日の外食とは違った胃に優しい食事を頂く。時間を忘れてお酒を楽しんでから眠りにつく。

5月13日(火) Ekincik ~ Marmaris (20NM) 晴れ 微風

08:10に舳いを解いて静かな湖水の様な海面をマルマリスに全レグ機走で行く。

マルマリスの湾のさらに奥の入り江の中に3つの大きなマリーナがある。最高の立地条件の所にマリ

一ナが点在している。この辺りから先はリキア海岸からカリア海岸に変わる。

バッテリーチャージャーとバウスラスターのスイッチに不具合が生じたのでこの中でも一番大きな Marmaris Nestle Marina に 11:30 に舫いを取る。



トルコのマリーナチェーンの SeturMarinas が経営しているところで施設も良いが料金も高い。45Ft の艇で 84€ する。

早速メカニックに修理を依頼するが夕方になるとの事だった。

お昼はソーメンをコックピットで頂く。陽射しも強くなりソーメンがピッタリだ。

食後デッキで午睡をした後、街に繰り出す。大変大きな観光地で長い岩壁にはガレット船が大きなクルーザーボートと共にずらりと係留している。

そしてその前はレストランが同じくずらっと並んでいる。大変大きな観光地だ。15 日ロードス島に行くフェリーの切符を買ってから私は修理があるので艇に戻る。上田夫妻、悦子は町を歩く。

夕方になってメカニックが来てくれ、バッテリーチャージャーを外して修理に持って行く。これは明日治してくるとの事だったがバウスラスターのスイッチは取り寄せなので 2 日はかかるとの事待つことにする。

夕食は昨日の残りのポトフを使った野菜スープ、牛肉とトマト、ナス、玉ねぎ、ピーマンの入ったキャセロール、ニンジンとルッコラのサラダを赤ワインで頂く。トルコはビーフよりマトンの方がお肉は美味しいが味付けが良かった。ほぼ満月の月の下でのコックピットでの夕食であった。

5 月 14 日(水) Marmaris ～ Marmaris 晴れ 南 10～20 ノット

昨日泊まった Nestle Marina は町の直ぐ脇にあり、非常に設備の良いところだが係留費が電気、水道代を入れて一日 94€ で高い。

昨日持っていたバッテリーチャージャーを修理して朝持ってきた。バウスラスターのスイッチも手に入ったようで取り付ける事が出来ホットする。14m 位の大きさの艇になると狭いマリーナでの出入港にはバウスラスターは必需品だ。

奥さん達が町に行っている間に修理が終わり 13:40 に舫いを解いて昨年越冬した同じ湾にある Marmaris Yacht Marina に行くが一杯で係留出来ないとの事で、その隣の Pupa Yat Hotel の棧橋に着けようと思ったがヨットが一艇も係留していないのと、無線、電話でコンタクトしてみたが通じなくスタッフも棧橋に現れなかったので諦めて、もう一つある Albtross marina に行く。ここも一杯だったが外側の固定棧橋に横付けすることが出来た。沖からの風で艇が棧橋に寄せられるので沖に打ってある舫いを取ってくれ艇が安定する。20 ノット近い風の中での着岸であったがこのスタッフが 3 人ほど来てくれ手伝ってくれ大変助かる。このスタッフは大変親切でファミリー的である。

マリーナの小さなレストランで到着の乾杯をビールです。防波堤の外側の係留で風が強く艇が揺れるので夕食はこのマリーナのレストランですることにして、午後の休息を各自味わう。

シャワーして艇に戻る前に夕食をレストランでカラマリのグリル、スズキのグリル、サラダ、フライドポテトを白ワインで食べるが我々だけでお客さんのいないひっそりした店であったがそれぞれ美味しい味で満足する。

ゆっくり揺りかごのように揺れる艇で眠りにつく。

5月15日(木) Marmaris 曇り

今日はロードス島へフェリーで日帰り旅行する。昨年 CAVOK5 で春に行ったところであるが上田さんのご主人のたつての希望の場所なので行くことにする。高速フェリーで1時間だがロードス島はギリシャなのでイミグレーションを通過していく。このイミグレーションでは大きな掲示で北キプロスを入国したものはギリシャに入国出来ないと書いてあった。我々が北キプロスに行ったときにパスポートにスタンプを押さずに別の用紙にスタンプを押してくれたのを思い起こす。

09:00 マルマリス発で帰りは 17:00 ロードス島発の日帰り海外旅行になる。

ロードス島の壮大な城壁を見ながらオスマントルコとヨハネ騎士団の壮絶な戦いを想像しながら7時間の観光を楽しんで帰る。

今晚は明日帰国する上田さんのご主人の最後の晩餐会をする。晩餐会の前夕暮れ時に海と空の光の変化を見ながら上田さんとハム、エビのタパスでお酒を楽しんだ。

陽が暮れると対岸のマリマリスの明かりが海岸線に連なり海に映し出され綺麗な光景であった。そして満月が山の峰から登ってきた。夕食はポテトとひき肉のオープン焼きとサラダをロードス島の免税店で上田さんが買った赤ワインで頂く。

5月16日(金) Marmaris 晴れ

今日は上田新次郎さんの帰国の日だ。

久しぶりに地中海らしい青い空の朝を迎える。朝食をコックピットでとった後、上田さんは荷物をトランクに詰める。

帰国の準備が出来た後ドルムツシュ(ミニバス)で町に出かける。水パイプをトライすることになり水パイプをやっている港の前のレストランに入る。海からの地中海の風と燦々と太陽の光を浴びながらガレット船を見ながら昼食をとる。トルコは小麦の名産地でパンが美味しいが今日出て来た中が空洞で円形をしたピタパンに似たパンが一段と食欲をそそる。

一人一皿メインを取ると多いので4人でラムのキャサロール、ラムのケバブ、イカのフライとサラダを分けて食べるがどれも美味しい。トルコではラムの肉は柔らかく、牛肉より美味しい。日本では食べられないラム肉の味だ。

食後エスプレッソ味の水パイプを皆で回しながら吸う。ニコチンが少なくタバコを吸わない人も吸える。

ドルムツシュで艇に戻って、15時に頼んでおいたタクシーで空港に向かう上田さんのご主人を見送る。17日間ご一緒したが、初めてのヨットにも拘わらず大変ヨット旅行を楽しんで頂いた。

去年は同時期にクレタ島で一緒したが艇のクラッチ故障のため一度も出港することが出来なかったが今回は順調に各地を廻れた。見送りした後、マリーナのレストランでチャイを飲みながら景色を楽しむ。

艇に戻ってからうたた寝をしてからシャワーを浴びて夕食を頂く。今晚はタイ風グリーンカレーだったスパイスが効いてご飯とぴったりで美味しかった。